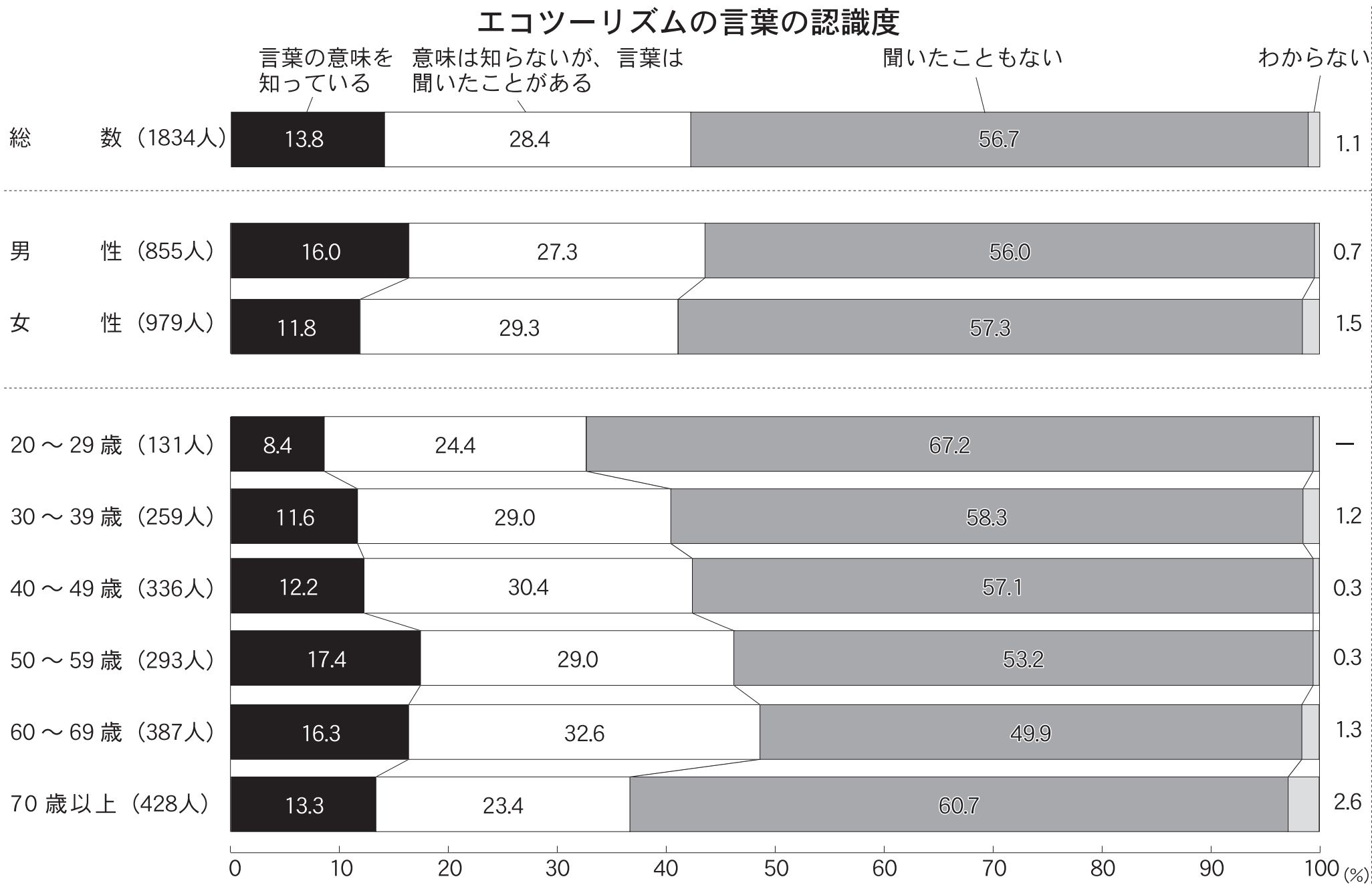


「エコツーリズム」課題多く

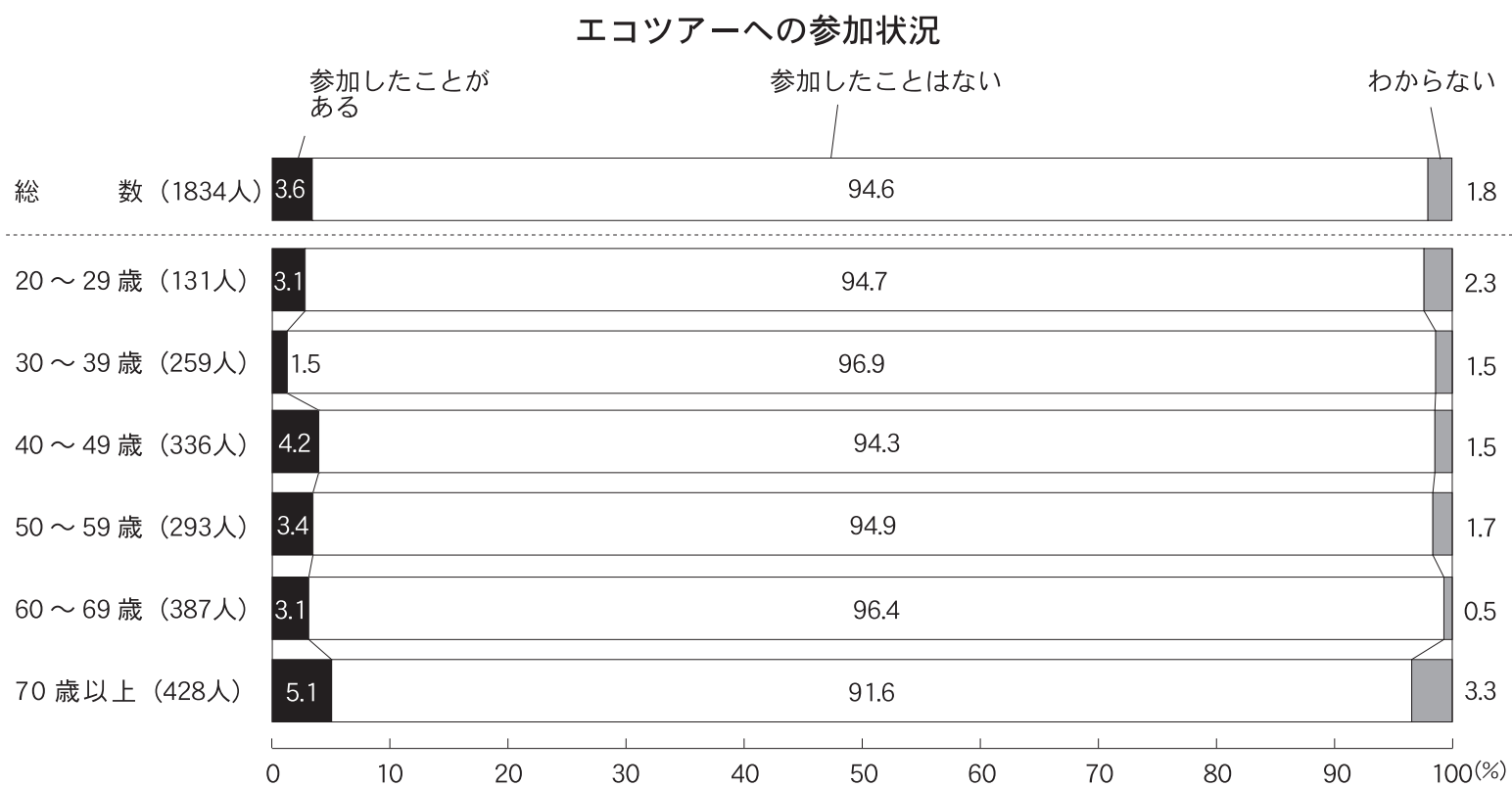
内閣府「環境問題に関する世論調査」



内閣府はのほど、「環境問題に関する世論調査」の結果をまとめ、公表した。「エコツーリズム」について、言葉の意味を知らない人の割合は8割を超え、「エコツアー」の参加未経験者も9割以上になった。エコツアー参加やエコツーリズムによる地域づくりに意欲的な人はいるものの、エコツーリズムそのものは身近とは言えない現状があらわになった。

調査は7月24日～8月3日、全国の20歳以上の3千人を対象に、調査員による個別面談聴取の方法で行われ、1834人から回答を得た。回収率61・1％。

調査はエコツーリズムのほか、自然に対する関心▽生物多様性▽絶滅危惧種▽についても行ったが、本紙ではエコツーリズムの項目のみ紹介する。



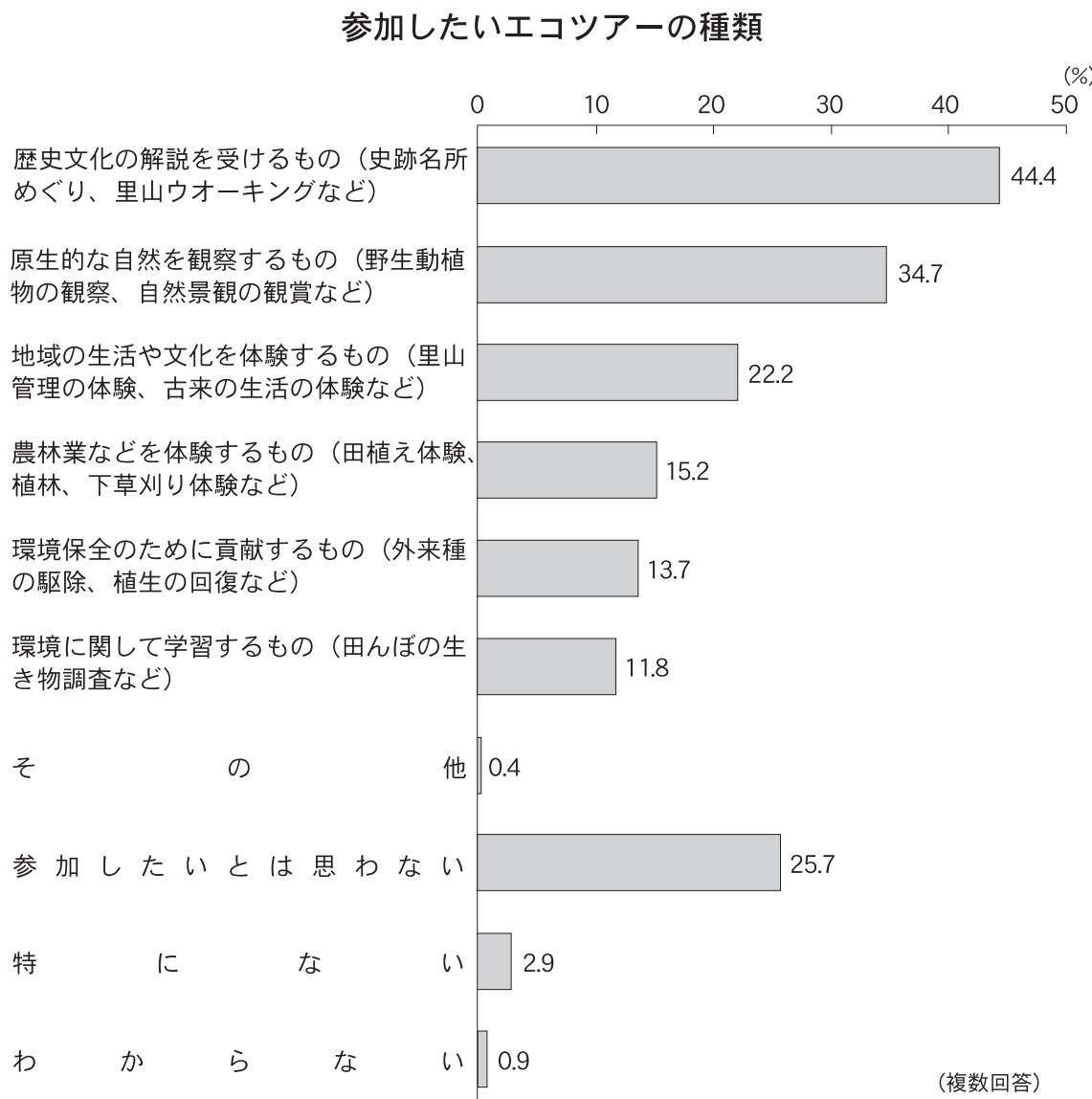
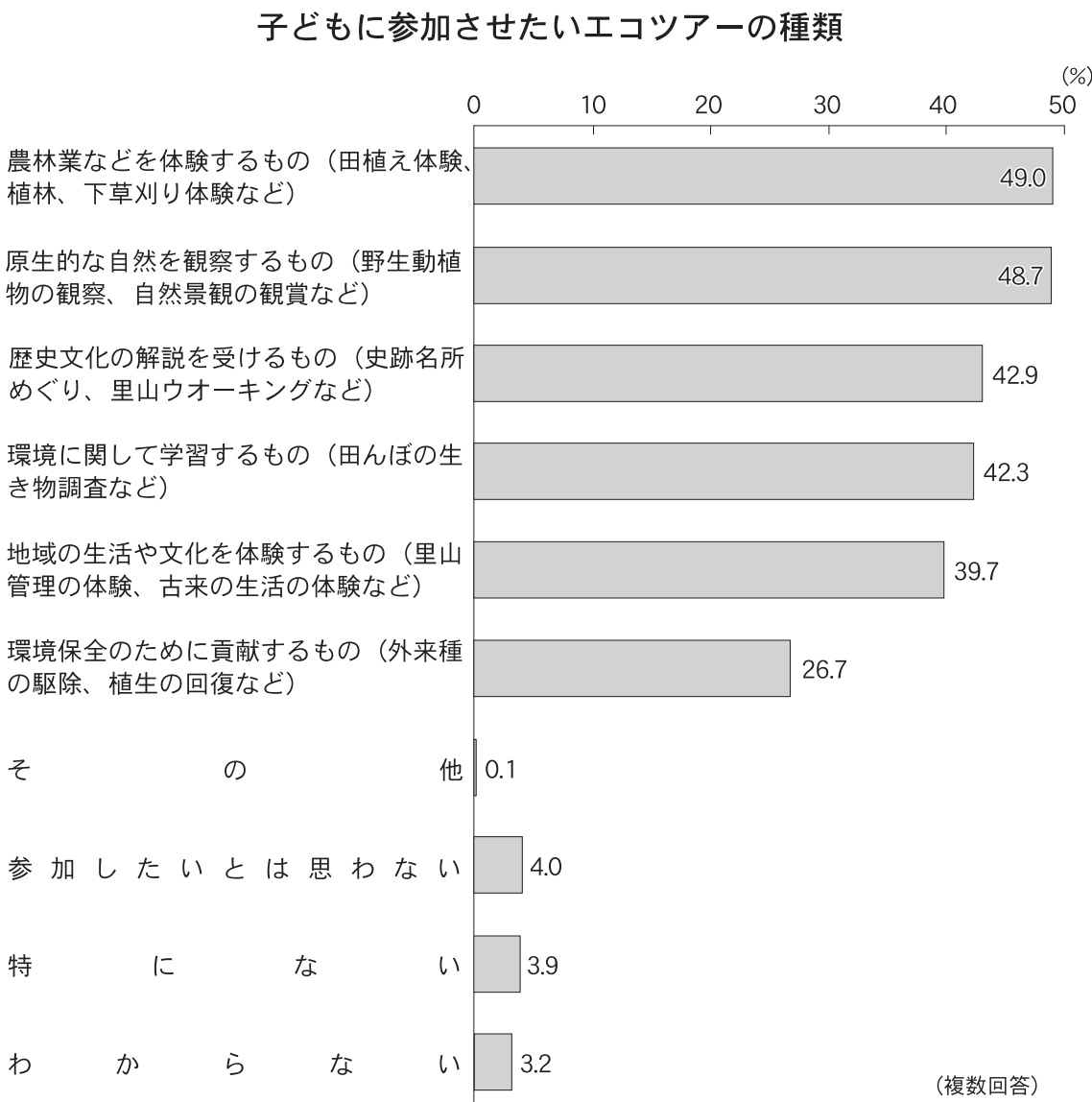
◎エコツーリズムの言葉の認識度
「知っている」の割合は、性別では男性、年齢別では50、60歳代が高い。

◎エコツアーへの参加状況
年齢別では総じて「参加したことがある」と答えた人の割合はかなり低い。性別では大きな差異はない。

◎参加したいエコツアーの種類
都市規模別みると「歴史文化の解説を受けるもの」を挙げた人の割合は中規模都市、「原生的な自然を観察するもの」は大都市で高い。性別では大きな差異はない。

◎子どもに参加させたいエコツアーの種類
都市規模別では「農林業などを体験するもの」を挙げた人の割合は大都市で高い。性別では「農林業などを体験するもの」「環境に関して学習するもの」の割合は女性の方が高い。

◎エコツーリズムによる地域づくりに対する意識
住む地域でエコツーリズムによる地域づくりを行いたいと思うか聞いたところ、「思う」「どちらかといえば思う」が58・2％、「どちらかといえば思わない」「思わない」が35・4％だった。「思う」の割合が高かったのは、町村在住者で20～40歳代で、70歳代以上の高齢者は「思わない」が高い。



参加意欲はあるが、認識度や参加状況低い